

無限大の進化  
日本を代表するギタリスト  
木村大が贈る新境地！

# 木村大 ギター・コンサート

win



神原大(ピアノ)

民音WEBクラブ  
www.min-on.or.jp/webclub/  
会員登録中！



アランフェス協奏曲(ホアキン・ロドリゴ)、ユー・レイズ・ミー・アップ(ロルフ・ラヴランド)、「四季」より「夏」(アントニオ・ヴィヴァルディ)、  
スペイン(チック・コリア)、天国への階段(レッド・ツェッペリン)、さくらさくら(日本古謡)、サンバースト(アンドリュー・ヨーク)、他  
※都合により曲目が変更となる場合があります。予めご了承ください。

公演日程(2017年)

2月18日(土)2:00p.m. 横浜・関内ホール

入場料金: ¥4,500[全席指定]<税込>

主催: MIN-ON

※未就学児童のご入場は固くお断りいたします。

公演のお問い合わせ

MIN-ONインフォメーションセンター 03(3226)9999

チケットのお求めは

チケットぴあ 0570(02)9999 [Pコード:313-958]

イープラス <http://eplus.jp/> (パソコン&ケータイ)

ローソンチケット 0570(084)003 [Lコード:34076]

CNプレイガイド 0570(08)9999

関内ホール(チケット専用ダイヤル)045(662)8411

11/17(木)  
発売開始!





# 木村大 ギター・コンサート ECHO



職業：ギタリスト。幼き頃より同じギタープレイヤーである父の指導により、他の誰とも違うクラシックギター歴がスタート。少年期からの、数々のコンクールで栄冠を手中に収めてきた輝かしき経歴、ディスコグラフィ等は、是非ともオフィシャルHPを参照して頂きたい。

アルバムデビューした1999年よりコンスタントにオリジナルアルバムをリリースし続け、2013年以降に発表した3部作『HERO』『ONE』『ECHO』では、ギタリストとして一つの大きな変革ともいえる新境地を開いた。卓越した技量や表現力は早くから世界水準であった木村だが、その3部作で彼が示した音の色彩は、これまで追求・構築してきた、いわゆる“クラシック界での常識”には全く収まりきれないほどの大胆さに満ち溢れている。逆に考えるならばそれは完全にクラシック・フィールドからの逸脱とも捉えられかねない表現手段を用いた3部作とも言えるのだ。

木村は常に自らが刺激を受けてきた、世界中のありとあらゆる

旋律、リズム、響きに触発され、それらを咀嚼(そしゃく)吟味し、自らの創作・パフォーマンスとして受け入れ、唯一無二の世界観を構築してきた。

例えば、ホアキン・ロドリゴの傑作にしてギターの最高水準曲『アランフェス協奏曲』、アンドリュー・ヨークの傑作ポップスで英華発外な『サンバースト』、魂に訴えかける、いわずと知れたレッド・ツェッペリンのマスターピース『天国への階段』等々、どれにしても重要性は変わらない。木村の手にかければジャンルの垣根など何の意味もなさず、いかなる楽曲もが朗らかさや叙情で満たされる。同時に、彼の稀有なところは、これまで身につけたクラシック特有の品格を忘れないところだ。その機微こそは奇跡のバランスの上に成り立っている。

創作では死に、ステージで生きる木村大。可能性への飽くなき追求と、常に音楽界に問題提議する木村のチャレンジは、恐らく生涯続くのだろう。

米澤和幸 (LotusRecords)

## 木村大 クラシック・ギタリスト Dai Kimura

1982年、茨城県生まれ。5歳よりギターと音楽理論を学ぶ。1996年、世界最高水準と言われる第39回東京国際ギターコンクールで見事14歳で優勝。バルセロナ音楽祭に招待されヨーロッパデビュー。17歳でソニーよりCDデビュー。デビューアルバムが異例の大ヒットを記録し、この間『トップランナー』『情熱大陸』等テレビ・ラジオに多数出演。

日本を代表するギタリストとしてスペイン王立セビリア交響楽団全国ツアー(14公演)にソリストとして参加。2002年より英国王立音楽院に留学。2004年、帰国第一弾として、ソリストとしては異例のNHK交響楽団と3夜連続共演。これまでソニーから6枚のアルバムと、キングレコードから3枚のアルバムを発表。

最新作の名曲群をリアレンジしたアルバム『ECHO』は、アマゾンのクラシックでベストセラー1位を獲得。様々なジャンルのアーティストとも共演し、国内外から注目を集める実力派ギタリスト。

## 榊原大 ピアニスト 作・編曲家 Dai Sakakibara

4歳よりピアノを始める。東京芸術大学在学中にG-CLEFを結成。卓抜した音楽性・演奏力をベースにフュージョン・インストゥルメンタルのフィールドを開拓し、7度にわたる全国ツアーや、インストゥルメンタル・バンドとして初の紅白歌合戦出場を果たす。

バンド解散後も、その力強いピアノタッチとジャンル不問の卓越したセンスは、葉加瀬太郎、ゴスペラーズ、中島美嘉、松田聖子、大友康平等、数々のアーティストのステージサポートやアレンジワークで発揮。2001年からソロ活動に取り組み、オリジナルアルバムのリリースを重ねる。

また映画やテレビドラマ等、映像音楽も数多く手掛けており、2005年にはNHK連続テレビ小説『ファイト』の音楽を担当。ほかにも日本テレビドラマ『ブルドクター』(2011年)やテレビ朝日系列『ANN ニュース』テーマなどで楽曲を提供。